

兵庫県COEプログラム推進事業 研究結果概要

□研究プロジェクトの概要

研究プロジェクト名	兵庫県産和牛の原皮を活用した芳香革の開発
代表機関	前實製革所 代表 前田大伸
共同研究チーム構成機関	兵庫県立工業技術センター、兵庫県立大学、姫路商工会議所
研究分野	高度技術関連

□研究結果の概要

【①研究プロジェクトの概要、特色】

革製品には独特のにおいがあるが、その正体は鞣し剤や仕上げ用薬品のにおいである。特に有機溶剤系のおいには一部の消費者から敬遠される傾向があるため、芳香性の革素材が求められている。また、兵庫県は和牛の産地であるため原皮の入手が可能であり、姫路市・たつの市は製革業者が集積する地域である。そこで、兵庫県産の芳香革の開発に向け、香り付けの基礎的研究、および実用レベルの試作を行った。

【②研究の成果】

加脂・再鞣し工程を最適化することにより、兵庫県産和牛用の鞣し技術を確立した。また、芳香仕上げ用の基礎配合を決定、無機多孔質体が香りの持続性の制御に有用である可能性が示唆された。さらに、芳香革を試作し、仕上げ面のざらつき等の実用化に向けた課題を明確にした。

【③本格的研究への展開】

本格研究に向けて、他の多孔質体の効果、および他の香料の検討が必要であるため、開発を継続する。香りの分析技術については、H27年度県単独事業「技術改善研究：におい嗅ぎ付き GC/MS による天然皮革のにおい分析」でガスクロマトグラフ質量分析計による機器分析を実施する。

【④今後の事業化に向けた展開】

既存の設備を利用することによって芳香革を生産でき、事業化に向けては市場調査を行う必要がある。香りの持続用の芳香革表面のざらつきは、財布・カバン等の革製品を身に着ける用途はネックになる。しかし、インテリア等の新たな用途であればそれほど気にならないため、これらの商品開発を目指す。また、香料を担持した多孔質体は保存や取り扱いが容易であり、仕上げ助剤としての展開も検討する。

【⑤地域的波及効果】（技術基盤強化等の効果、地域社会・経済発展への寄与）

これまでの革は視覚・触覚に訴える素材であるが、芳香革は人間の嗅覚に訴え記憶に残る素材である。本研究をきっかけに、兵庫県の皮革産業をPR、製革技術の発展が期待される。また、さまざまな香りをつけることで新たな皮革ファンを増やし、新たな市場を創出する可能性がある。